

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書) 1. 大日経 I	共著	1986 (昭和61年)	真言宗選書 9 同朋舎	神林隆浄「大日経講義」、岩鶴密雲「西蔵伝大日経住心品和訳」を収めた本書の責任編集と解題を担当したものの。		17頁
2. 瑜伽師地論菩薩地戒品	共著	1993. 5 (平成5年5月)	法蔵館	羽田野伯猷編集 分担 左頁には当該書のサンスクリット語、チベット語訳、漢訳を対校し諸版の異読を提示、右頁には海雲の注釈書(東北No.4047)の対応箇所を提示した(菩薩地戒品)のテキストであり、資料編には徳光の注釈書(東北No.4045)を収載したもの。それらのチベット語の部分に藤田光寛が分担担当した。		355頁
3. 定本弘法大師全集 第四巻	共著	1996. 2 (平成7年2月)	高野山大学密教文化 研究所	校訂・解説 後藤雅則・藤田光寛 弘法大師作の「仁王経開題」「法華経開題」「法華経釈」「法華経密号」「梵網経開題」「最勝王経開題」「金光王経秘密伽他」「金光般若波羅蜜経開題」「一切経開題」の校訂と解説を後藤雅則氏と共同で担当。		133頁
4. 仏教徒のあり方と戒律	単著	2003. 8 (平成15年)	高野山大学	高野山大学夏季生涯学習講座in 高野山2003で使用したテキストである。 インド初期仏教における戒律、 インド大乘仏教の瑜伽戒、後の インド密教の戒について解説した もの。		125頁
(学術論文) 1. 瑜伽師地論菩薩地戒品に 対するチベット語訳注釈 書、最勝子 註(東北 No.4046)と海雲註(東北 No.4047)とをめぐって	単著	1977. 2 (昭和52年2月)	密教文化118 高野山大学	『チベット大蔵経』には(菩薩地戒品)の注釈書が3種収められている。そのうち、最勝子が著したとされるもの(東北No.4046)と海雲が著したとされるもの(東北No.4047)とは同一のサンスクリット原典(その作者は海雲か最勝子かは速断できないが)から翻訳されたものであることを証明した。		17頁
2. 敦煌出土瑜伽論チベット 語遺文 I	単著	1979. 3 (昭和54年3月)	密教文化126 高野山大学	A.Steinが蒐集した敦煌出土のチベット語写本のうち、(菩薩地)に関連性を持つと思われる写本を整理し検討し、A.Stein蒐集写本目録には同定されていないもの(Stein nos. 673、676)の同定や、現存のチベット大蔵経に収められていない写本(Stein nos. 674、633-1)などの検討を行って、既述のA.Stein目録に新情報を付加した。		18頁
3. 瑜伽師地論菩薩地にお けるチベット語 bshinの用法	単著	1980. 3 (昭和55年3月)	高野山大学論叢15	チベット語訳文献のSyntax上の問題を 含む翻訳法の把握を視点におき、当 該文献におけるチベット語の用法を檢 討した。		12頁
4. 律儀二十頌について	単著	1983. 3 (昭和58年3月)	中川善教先生頌徳記 念論文集	インド・チベット仏教における大乘 戒のうち、(菩薩地戒品)に説かれた いわゆる瑜伽戒は、Candragomin著 (菩薩律儀二十)(菩薩地戒品)の 内容を二十の偈頌にまとめたもの)と その注釈書(vṛttiとpañjikā)を用いて 展開した。そこでこの(菩薩律儀二 十)の内容と特徴を論じたものである。		26頁
5. Byaṅ chub bzaṅ po 著 菩薩律儀儀軌について	単著	1983. 3 (昭和58年3月)	密教文化141 高野山大学	当該文献(東北No.3967=4491)に相 当するサンスクリット語写本の存在を はじめて指摘し、当該文献の内容を分 析した。あわせて『チベット大蔵経』 の中観部に収められた五書(東北nos. 3966、3967、3968、3969、3970)を解説し た。		14頁
6. チベット文化と求道者	単著	1984. (昭和59年)	吉井芳純編 『チベットの仏教文 化』	チベットの文化、特に仏教文献を中 心とした文化の簡単な紹介、およびチ ベット学の始祖、チャーマ・ド・ケレ		14頁

7. ドルマ堂訪往記	単著	1985. 3 (昭和60年3月)	密教学会報24 高野山大学	ス(ハンガリー人)、日本のチベット学の祖たる河口慈海を始めとする1959年以前の求道者としての日本人入藏者の紹介。  アティーシャ(982-1054)が説法し、口伝要訣や灌頂などを与えた衛(Dbus)の四大説法処の一つであり、彼が入寂した処でもあるチベットのラサ近郊のネタンにあるドルマ堂(ターラー堂;アティーシャの念持守護仏はターラーであった)を訪問した記録である。ちなみに、拙稿「パーラ王朝の諸王が建立した四大仏教寺院」で述べたように、バングラデシュ国のダッカ近郊のVikramapuraのVajrayoginī村がアティーシャの生誕地であるので、私はアティーシャの生誕地と入寂地の両方を実際に訪れ紹介したことになる。	4頁
8. 〈菩薩地戒品〉所説の菩薩戒の一考察	単著	1986. 3 (昭和61年3月)	印度学仏教学研究 34-2 日本印度学仏教学会	インド・チベット仏教における大乘菩薩戒の展開の一端を概観し、次にチベット人 Dñul chu Dharmabhadra(1772-1851)の講義(菩提正道心髄)(東北蔵外No.6418)の内容を検討した。	8頁
9. チベットにおける菩薩戒の受容の一断面	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	印度学仏教学研究 36-2 日本印度学仏教学会	チベットのサキヤ派の法主 Sa skya paṇḍita Kun dgaḥ rgyal mtshan (1182-1251)が著した〈Sdom gsum rab dbye〉(三律儀細別)は声聞・独覺(=小乗)のPrātimokṣa-saṃvara、大乘菩薩のBodhisattva-saṃvara、密教のMantra-saṃvaraの三種の律儀の相互関係を論じたものである。このうち第二章「菩薩律儀」を検討し、大乘菩薩戒の特徴とこの戒がチベットにおいて受容された一断面とを窺ったものである。	8頁
10. Bodhisattva - prātimokṣa-catuṣka - nirhāra について	単著	1988. 10 (昭和63年10月)	密教文化163 高野山大学	Śāntideva(寂天、7世紀後半)が著した〈大乘集菩薩学論〉(Śikṣasārnucaya)において〈Bodhisattva - prātimokṣa〉という經典が引用されている。この〈Bodhisattva - prātimokṣa〉はチベット訳(東北蔵No.248)が現存している。そこで、この經典の内容を概観した。併せて、Prātimokṣa(波羅提木叉、別解脱)とは初期仏教で僧侶の比丘・比丘尼が守るべき条文を集めたものであるので、「大乘のPrātimokṣa」とは何であるか?を考察した。	16頁
11. 〈菩薩地戒品〉和訳(I)	単著	1989. 2 (昭和63年2月)	高野山大学論叢24	〈瑜伽師地論〉本地分の第十五〈菩薩地〉における第十章戒品のうち、最初から§2一切戒の「四種の他勝処」法を説いた箇所までを和訳研究したものの。	21頁
12. 〈菩薩地戒品〉和訳(II)	単著	1990. 2 (平成2年2月)	高野山大学論叢25	〈瑜伽師地論〉本地分の第十五〈菩薩地〉における第十章戒品の§2一切戒のうち、「菩薩の違犯」の四十四条を和訳研究したものの。	21頁
13. 〈菩薩地戒品〉和訳(III)	単著	1991. 2 (平成3年2月)	高野山大学論叢26	〈瑜伽師地論〉本地分の第十五〈菩薩地〉における第十章戒品のうち、§2一切戒の「發露懺悔法」から§9清淨戒の最後までを和訳研究したものの。	10頁
14. 〈菩薩地戒品〉の受戒法	単著	1991. 12 (平成3年12月)	東北大学印度学講座 六十五周年記念論集 『インド思想における人間観』 平楽寺書店	チベットのツォンカバ(1357-1419)が著した〈菩提正道〉(東北蔵外No.5271)の第二章一切戒の解説のうち、戒を受ける方法(受戒法)の解説部分の和訳・検討を試み、〈戒品〉所説の受戒法のインド・チベットにおける受容・展開の側面を窺ったもの。	26頁
15. 〈菩薩地〉所説の菩薩戒に関する若干の問題	単著	1992. 3 (平成4年3月)	密教学研究24	インドの中期大乘仏教のテキスト〈瑜伽師地論・本地分・菩薩地〉の第十章(戒品)で説かれる大乘の菩薩戒の構造とその特質について考察したものの。	15頁
16. パーラ王朝の諸王が建立	単著	1993. 1	高野山大学密教文化	『チベット大蔵経』所収の各テクス	17頁

した四大仏教寺院		(平成5年1月)	研究所紀要 6	トの奥書をもとにして、約8世紀から12世紀までのパーラ王朝の4人の王によって建立された、4つの大僧院とそこに所属した仏教者たちを考察した。ここではインド後期仏教(密教)が栄え、テキストの作成やチベット語への翻訳も行われ、大学問寺であったことの一端が分かった。	
17. チベット密教	単著	1994. 3 (平成6年3月)	密教学会報33 高野山大学	チベット密教に視点をおいて、現在でも入手可能な和文の書物、論文の主なものを、コメントを付して紹介したもの。	12頁
18. 菩薩地(戒品)に説かれる「殺生」について	単著	1995. 6 (平成7年6月)	密教文化191	ターミナル・ケアの問題のうちで尊厳死の問題にも関連する「慈悲心と善巧方便に基づく殺生」について、Asaṅga(無著、4世紀頃)作とされる(瑜伽師地論・菩薩地・戒品)を考察したもの。	17頁
19. 方便をとまなう十善戒(大日経)と(菩薩地戒品)における一	単著	1998. 7 (平成10年7月)	『インド密教の形成と展開』所収 法蔵館	(大日経)の「受方便学処品」で説かれる菩薩の十善戒の思想が直接的には(菩薩地戒品)の影響を受けていることを証明したもの。	20頁
20. 瑜伽戒に関する敦煌出土チベット語写本	単著	1998. 8 (平成10年8月)	山崎泰廣教授古稀記念論文集 『密教と諸文化の交流』 永田文昌堂	敦煌から出土したチベット語写本のうち、瑜伽戒に関する(菩薩律儀二十)関係書、即ちSteintibの①no. 673と現存のチベット大蔵經に収められていない②no. 633-1 ③no. 674の3写本の検討を通して、これらの敦煌チベット語写本の特徴、ひいては敦煌仏教における瑜伽戒のありよう、瑜伽戒の受容の一端を明らかにした。	17頁
		2000 (平成12年)	中国語訳(劉永増氏) 『1994年敦煌学国際検討会文集』 宗教文史巻上		
21. 書評 北村大道、ツルティムケサン(共訳) ツォンカバ著『吉祥秘密集 会成就法 清淨瑜伽次第 -チベット密教実践入門-	単著	1998. 3 (平成10年3月)	『密教学研究』29 所収	和訳研究の当該書の紹介と批評	6頁
22. <菩薩地戒品>所説の大乗菩薩戒に関するチベット撰述文献(Ⅰ)	単著	1999. 2 (平成11年2月)	高野山大学論叢34	(菩薩地戒品)所説の「瑜伽戒」に関するチベット人が著した注釈書3種のうち、サキヤ派の導師 Grags pa rgyal mtshan (1147-1216) が著した(Sloka二十の解説)(『サキヤ派全書集成』Vol. 4, No.136)の概要を提示したもの。	17頁
23. 「瑜伽戒における不善の肯定」	単著	2000. 5 (平成12年5月)	『日本仏教学会年報』65	瑜伽戒における不善なる行為の容認、肯定を説く記述を、(菩薩地戒品)と(大乘莊嚴經論)、(撰大乘論)において検討し、その意味内容を明らかにしたもの。	19頁
24. 「瑜伽戒の受戒儀軌 - Nāgārjuna 著(発菩提心儀軌)と Bodhibhadra 著(菩薩律儀儀軌)を中心として -」	単著	2000. 12 (平成12年12月)	高木神元先生古稀記念論文集『仏教文化の諸相』 山喜房佛書林	瑜伽戒の受戒作法を説いた Bodhibhadra 著(菩薩律儀儀軌)(東北No.3967、大谷No.5362)のサンスクリット語写本の紹介と7~8世紀に在世した Nāgārjuna 著(発菩提心儀軌)の内容の解明。	13頁
25. 「<菩薩地戒品>所説の大乗菩薩戒に関するチベット撰述文献(Ⅱ)」	単著	2001. 2 (平成13年2月)	『高野山大学論叢』36	ツォンカバ(1357-1419)が著した<菩提正道>(東北藤外No. 5271)(<菩薩地戒品>に対する注釈書)の概要を提示したもの。	13頁
26. 「インド・チベット仏教における大乗の菩薩戒一無著流と寂天流」	単著	2001. 3 (平成13年3月)	『密教学研究』33	大乗の菩薩戒のうち無著流と寂天流の特徴、チベットにおけるその相承系譜、ゴルチェン・クンガサンポ(1382-1456)<中観流の発心と自分で受戒する儀軌>の内容を考察したもの。	17頁
27. Candragomin 著<菩薩律儀二十>とその注釈書2種 一校訂テキスト	単著	2002. 2 (平成14年2月)	『高野山大学密教文化研究所紀要』15	チベット語テキスト3点(Candragomin 著『菩薩律儀二十』、Sāntarakṣita 著『律儀二十註』、Bodhibhadra 著『菩薩律儀二十難語釈』)の校訂テキストを提示した。その際、デルグ版を底本とし、チョネ版、北京版、ナルタン版に加えて、	131頁

28. Śāntarakṣita 著 『律儀二十註』について	単著	2003. 2 (平成15年2月)	『高野山大学密教文化 研究所紀要』16	The Golden Manuscript Tanjur (『金写<丹珠爾>影印本』、18世紀 前葉)、都合5本の版本・写本とを 比較校合し、その内容を理解しやす いよう整理した。	19頁
29. チベット大蔵経所収の唯識 部のテキストについて (1)	単著	2004. 2 (平成16年2月)	『高野山大学密教文化 研究所紀要』17	チベット大蔵経の唯識部のテキストは A群(デルゲ版とチョネ版)とB群(ナル タン版と北京版、The Golden Manuscript Tanjur)の2に分類できる。各版(写本) 目録部の当該解説部分を比較対照して 提示した。	22頁
30. 書評 越智淳仁『図説・ マンダラの基礎知識』	単著	2007 (平成19年)	『密教学研究』39	書評	5頁
31. 書評 森雅秀『生と死から はじめるマンダラ入門』	単著	2008 (平成20年)	『北陸宗教文化』20	書評	5頁
32. "Shingon Esoteric Buddhist Rituals: the Rituals of Koyasan"	単著	2008. 3 (平成20年3月)	『高野山国際 密教学術大会記念誌』	高野山で行われている密教儀礼のいくつ かを紹介し、その意義を述べた。	10頁
33. 「現代社会における 密教の具体的な展開 —利他行の視点から—」	共著	2008. 3 (平成20年3月)	『密教学研究』40	シンポジウムにおいて私はパネリストと して「国際社会における密教の展望と して何を提示すべきか」というテーマで お話をした。	私の分は 約6頁
34. 「インド・チベット 仏教における大乗の瑜伽 戒について」	単著	2009. 7 (平成21年7月)	『日本佛教学会年報』 第74号	〈菩薩地戒品〉で説かれる瑜伽戒の概説 とその特徴を述べ、新出資料のツァンナ クバ(律儀二十註、明解な句義)を使用 して(大日経)への影響関係を証明した。	12頁
(その他)					
1. 松長有慶『密教を知る ためのガイドブック』 再録		1995. 11 (平成7年11月)	法蔵館	『密教学会報』33に収められた拙稿 に若干の加筆訂正をしたもの。	13頁
2. 修法と儀式		1997. 7 (平成9年7月)	『密教と曼荼羅』 所収 世界文化社	密教の修法と儀式のもつ意味につい て分かりやすく解説。	8頁
3. 『仏典入門事典』中、 三項目を執筆		2001. (平成13年)	大蔵経学術用語 研究会編 永田文昌堂	「1795大方広円覚修多羅了義経略疏註」 「1796大毘盧遮那成仏経疏」 「1798金剛 頂大瑜伽秘密心地法門義訣	3頁
4. "Bengal and Atisha"		2004. 3 (平成16年3月)	Dhaka, 2004年2月	Hasna Jasimuddin Moudud編 Celebration of 1024th Birth Anniversary of the Venerable Buddhist Scholar Atish Dipankar Srijinan 所収	7頁
5. 「高野山の壇上伽藍と その意味」		2004. 3 (平成16年3月)	和歌山県高等学校 教育研究会 国語部会	『会報』第32号	2頁
6. 「高野山の学道と 真言教学」		2006. 2 (平成18年2月)	高野山真言宗教学部編	『紀伊山地の霊場と参詣道 高野山— 神と仏のいます山—』	26頁
7. 「高野山の年中行事」		2006. 9 (平成18年9月)	高野山大学選書 刊行会編	『高野山と密教文化』 高野山大学選書第一巻	16頁

学会等および社会における主な活動		藤田
日本印度学仏教学会	2007. 4. 1～(平成19年4月～)	評議員
日本西藏学会		
日本仏教学会	2007. 4. 1～(平成19年4月～)	理事
日本密教学会	2005. 4. 1 ～(平成17年4月～)	理事
印度学宗教学会		
密教図像学会		
日本山岳修験学会		
日本仏教社会福祉学会		
2003. 8. 9(平成15年8月9日)	和歌山県高等学校教育研究会国語部会の高野山研修会で伽藍の現地案内をする	
2003. 8. 27～2003. 8. 29 (平成15年8月27日-29日)	高野山大学夏季生涯学習講座in高野山2003の講師 「仏教徒のあり方と戒律」	
2003. 9. 14(平成15年9月14日)	高野町主催「2003祈りの経、山上の小宇宙」 第3部堂塔めぐり担当(伽藍の金堂の中で 伽藍創建の意義等を解説)	
2001. 4. 1～2004. 3. 31 (平成13年4月1日-平成16年3月31日)	密教文化研究所専従研究所員	
2004. 4. 1～2005. 3. 31 (平成16年4月1日-平成17年3月31日)	密教文化研究所兼任研究所員	
2004年度(平成16年)	高野山学(高野町教育委員会主催)を3回(5/15, 9/18 10/16) 講義担当	
2004. 4. 1～(平成16年4月1日～)	高野町史編纂専門委員	
2004. 7. 3(平成16年7月3日)	高野町石道「語り部養成講座」のルートカリキュラム の講師	
2004. 9/12, 10/17 (平成16年9月12日, 10月17日)	平成16年度高野山大学秋季公開講座in大阪の講師	
2008年度(平成20年)	高野山学(高野町教育委員会主催)を2回(4/19, 7/19) 講義担当	
1987. ～現在(昭和62年-現在)	高野山真言宗教師検定試験受験者講習会講師並びに 教師検定委員	
2001. 4. 1～2009. 3. 31 (平成13年4月1日-平成21年3月31日)	高野山住職会代議員	
1978. 12～現在 (昭和53年12月-現在)	高野山徳善院住職	
2005. 8. 20～現在 (平成17年8月20日-現在)	高野山大圓院住職	
2009. 4. 1～(平成21年4月1日～)	高野山住職会監査	
2009年度(平成21年)	高野山学(高野町教育委員会主催)を特別講座3回(7/18、	

	8/22、9/19) と普通講座 (11/14) の講義を担当
2009. 10. 31～11. 2 (平成21年10月31日-11月2日)	第30回日本山岳修験学会高野山学術大会の実行委員長
2010年度(平成22年)	高野山学 (高野町教育委員会主催) を特別講座2回 (4/17、7/17) と普通講座 (11/20) の講義を担当
大学行政への係わり (所属委員会)	
平成13年度(2001年)	情報処理委員会委員長 図書館協議会 同和研究会 密教文化研究所専従研究所員 各種奨励賞選考委員会
平成14年度(2002年)	情報処理委員会 各種奨励賞選考委員会 同和研究会 密教文化研究所専従研究所員
平成15年度(2003年)	情報処理委員会 大学院委員会 密教文化研究所専従研究所員 教員資格審査委員会
平成16年度(2004年)	情報処理委員会 密教文化研究所兼任研究所員 学生部協議会 教員資格審査委員会 大学院委員会
平成17年度(2005年)	同上
平成18年度(2006年)	学生部長 自己点検・評価運営委員会 同和教育研究会 入学試験委員会 大学院委員会 大学院改革委員会 学生 部協議会 密教文化研究所兼任研究所員 創立120周年記念 事業委員
平成19年度(2007年)	密教文化研究所兼任研究所員 教員資格審査委員 学生募 集戦略本部 学生部協議会
平成20年度(2008年)	密教文化研究所長 教員資格審査委員 宗教教育担当 学 生募集戦略本部 自己点検・評価運営委員会 密教文化研 究所協議会
平成21年度(2009年)	密教文化研究所長 教員資格審査委員 大学院委員会 宗教 教育担当 自己点検・評価運営委員会 密教文化研究所協 議会 大蔵会担当
平成22年度(2010年)	密教文化研究所長 教員資格審査委員 大学院委員会 密教 文化研究所協議会 自己点検・評価運営委員会 宗教教育 担当 大蔵会担当 薬物等乱用防止対策委員会

所属	文学部	職名	教授	氏名	藤田光寛	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2003年 前期 (平成15年前期)	導入ゼミにおいて、パソコンを使ってスライドを見せ、授業の理解を補った。			
		2003年前・後期 (平成15年前・後期)	独自の受講カードを作成し、講義終了時に学生に今日の講義内容をふまえた簡単なクイズを出して解答させている。この提出されたカードが出欠カードを兼ねている。			
		2004前期 (平成16年前期)	高野山学1ではOHPを使用して授業を行い、内容理解の充実をはかった。			
2. 作成した教科書、 教材、参考書		2003年8月 (平成15年8月)	チベット語文法を担当していた時に受講生に配布。 『古典チベット語文法』B5、105頁			
			高野山大学夏季生涯学習講座in高野山2003で使用した教科書『仏教徒のあり方と戒律』A5、125頁			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等		2006. 10. 14 (平成18年10月14日)	教育改革リレーフォーラムin高野（地域交流センター主催）において基調講演「綜芸種智院に習う」 於高野山大学			
		2009. 6. 18 (平成21年6月18日)	高野山高校教育説明会（橋本市西部地区公民館） において「弘法大師の教育観」と題して講演する。			
4. その他教育活動上 特記すべき事項		2003. 10. 15～18 (平成15年10月15 -18日)	高野山真言宗教師検定試験受験者講習会の講師 (真言宗史と密教概論)を担当			
		2004. 6. 18, 20 (平成16年 6月18, 20日)	大師教会において教会教師養成講習会の講師を務め 「真言宗の教理」を講義			
		2004年度 (平成16年)	前期4コマ、後期4コマ、高野山学1・2を担当			
		2005. 6. 18, 19	大師教会において教会教師養成講習会の講師を務め			

(平成17年 6月18, 20日)	「真言宗の教義」を講義
2005年度 2007年度 (平成17年・ 平成19年)	高野山真言宗教師検定試験受験者講習会の講師 (真言宗史と密教概論)を担当
2008年度 (平成20年)	大師教会において教会教師養成講習会の講師 を務め「真言宗の教理」を講義
2008年度 (平成20年)	前期6コマ、後期5コ、通信教育課程 2コマを担当
2009年度 (平成21年)	前期5コマ、後期4コマ、通信教育課程 3コマを担当
2010年度 (平成22年)	前期5コマ、後期4コマ、通信教育課程 3コマを担当